

2017年6月19日

SUBARU 北海道・美深試験場に高度運転支援技術テストコースを新設

- 「高速道路の分合流」など高度な運転支援技術の開発に向けたテストコースを新設
- 2017年度下期に運用開始

SUBARUは、スバル研究実験センター美深試験場(北海道中川郡美深町)のテストコースを改修し、今後の運転支援技術の高度化に向けた技術開発に活用します。

美深試験場は、冬季雪上試験を目的とした開発拠点として1995年に開設しました。総敷地面積361ヘクタールの中に、寒冷地走行試験のためのコースに加え、高速走行路やハンドリング路など有し、通年に渡り様々な試験を実施しています。

当社は、中期経営ビジョンで掲げる「SUBARUブランドを磨く」取り組みの一環として、総合安全NO.1ブランドを目指し、運転支援システム「アイサイト」のさらなる進化に向けた技術開発を進めています。

この開発をさらに加速させるため、「高速道路のカーブ」「高速道路の分合流」「市街地を想定した交差点」のほか、「北米のフリーウェイを模した路面」など、高度化していく運転支援技術開発に必要なテストコースを、美深試験場の中に新設します。なお、設備投資額は約30億円、2017年度下期に運用を開始する予定です。

SUBARUは、これからも個性豊かな魅力ある確かなクルマづくりを貫き、お客様に「安心と楽しさ」を提供していきます。



SUBARU 北海道・美深試験場